

『蕃山 知の旅』

昔々桐原村というところにおばあさんが住んでいました。

おばあさんのところに20歳になった孫の蕃山がはるばるやってきました。

蕃山は、それはとてもとても長い道のりをきたので、疲れてしまい、おばあさんのところに着くとすぐに病気にかかかってしまいました。

蕃山は将来、武士になろうと思つて
いたので、あまり勉強が大切だと思
つていませんでした。

しかし病気になつてはじめて「辛い
時困つた時、お前を助けてくれるの
は学問だよ」といったお父さんの言
葉を思い出しました。

そこで中国の本を読み始めましたが、
難しくてさっぱりわかりません。

「これは何て読むんだ。ああ、先生
がいてくれたらいいのに。」

元気になった蕃山は先生を探しに旅
に出ることにしました。

旅を続けていたある晩のことです。
宿に泊まると、なにやら隣のお客が
騒いでいます。

「大変だあ、大変だあ。馬の鞍につ
けておいた二百両を忘れてきちまっ
た。ご主人からあずかった大金、な
くしちゃったらおいらは首をくくつ
て死ぬしかない。えーんえんえん」
お客はついには泣き出しました。

すると、そこへ馬屋の男がたずねてきました。

「ごめんください。昼間、私の馬にのったお客さんはいますか。」

「へい、なんでしょう。私ですが。」

「ああ、よかった。あなた、これを忘れていましたよ。」

馬屋は、二百両をお客に渡しました。

お客はびっくり仰天。

「なんていい人だ。ありがとうございます。ありがとうございます。ありがとうございます。お礼に、少しですが、これをお持ちください。」

お客は、返してもらったお金の中から少しのお金を取り出すと、馬屋に渡そうとしました。

しかし、馬屋はお金を受け取りません。

「お客さん、お金はうけとれません。私は、当たり前前のことをしただけです。」

お客は不思議で不思議で仕方ないので、馬屋に理由をたずねました。

「あなたはどうしてもそんなに立派なのですか。」

すると、馬屋は、こう言いました。

「私の村には中江与右衛門という先生がいて、こう教えられました。正しいことをしなさい。自分が正しいと思つたことを信じなさい。そして親を大切にしなさい。決して貧乏だからといって、人のものを盗んだりしてはいけません。身分が低いからといって、自分を曲げてはいけません。もし、私があなたからお礼のお金をいただければ、先生の教えてくださつたことを裏切ることになりません。自分が正しいと思つて、ことに負ける弱い人間になつてしまいません。だから、お金は受け取れないのです。」隣の部屋でその話を聞いていた蕃山は、「よし、中江先生に学ぼう」と強く心に決めました。

そして、中江先生のもとで一生懸命勉強を続けた蕃山が36歳の時です。

「大変だあ。大雨だ大雨だ。」

「作物がみんな流されるぞー。」

「はやく逃げろー」

大雨と洪水で、9万人もの人々が被害にあいました。

「蕃山先生、大変です。大雨で、みんな流されています。農作物もみんなダメです。このままではみな飢え死にしてしまいます。どうしたら農民を救えるでしょうか。」

蕃山は岡山藩の藩主光政に相談を受けました。

蕃山は、うんと考えてから、こう言いました。

「幕府からお金をかりて、人々の救済にあてよう。そして、たくわえてあるお米をみんなに配るのです。」

藩主光政は蕃山の助言に従い、災害から多くの人々を救いました。

「こんなに大きな災害だったのに、だれも飢え死にしなかったわ。」

「これも蕃山先生のおかげね。」

蕃山の噂はまたたくまに全国に広がっていきました。

さらに蕃山は、自然を大切にしながら人間の生活を豊かにするにはどうしたらよいかを考えました。

「このまま、木をきつたままにすれば、また洪水や水不足が起こるだろう。川をかってにせき止めればこれもまた洪水や水不足を引き起こす。

地質を調べて、高い山には杉を植えよ。自然に逆らわずに生きていくんだ。」

災害や地球温暖化など、今も私たちが直面する問題に蕃山は300年前に取り組んでいました。

また学問を重んじた蕃山は、庶民でも学ぶことができる学校を作りました。その当時ではめずらしい女子教育にも取り組みました。

「みなが勉強できる環境をつくっていい。時間はかかるかもしれないが、勉強したいものが、勉強できる環境が必要だ」

災害、食糧難、疫病など辛いこと、苦しいことは、今も昔も同じです。

しかし蕃山はいつも学ぶことによつて難しい問題を解決してきました。

蕃山はいろいろなことを私たちに残してくれましたが、「勉強することは死ぬまで続けなさい。」

これが一番私たちに残したかったことなのかもしれません。